

TMRセンターの自立運営に向けた支援

(別海町西春別地域)

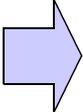
1 課題の背景*****

- 対象：(株)マイスターフードSFR（平成19年設立、6戸、経産牛総頭数約400頭、草地面積約420ha）
- これまでの支援：TMR飼料部に対し、飼料設計の提案と飼料設計変更時の構成員巡回



センターの課題

- ①サイレージ生産に係る実績データの蓄積（今後の在庫予測につなげる）
- ②ほ場部の活動機会を増やし、センターとしてのほ場管理充実



課題解決に向けた対応策

- ①データ蓄積の方法を確立し、センターとして必要な情報を整理できる仕組みを構築する
- ②ほ場の状態と管理の履歴を把握し、ほ場管理の計画を検討できる体制を構築する

2 活動の経過*****

○実績データの蓄積方法の確立に向けて

活動内容	時期	方法	対象
データ入力シートや作業日報の作成方法について提案	H29.4～ H30.3	個別	事務担当者
ほ場台帳とスタック台帳の作成方法について提案		個別	事務担当者
データ蓄積方法と内容についての検討会	H30.3	集団	6戸・事務担当者
データ蓄積体制の自主運用方法と活用について助言	H30.4～	個別・集団	事務担当者・ほ場部・飼料部
今後の運営方針についての検討会	R1.5	集団	6戸・事務担当者
年間スケジュール表や集計作業マニュアルの作成支援	R1.5～	個別	事務担当者・代表

○ほ場管理の体制構築に向けて

活動内容	時期	方法	対象
植生調査	H30	集団	6戸
ほ場マップに係る検討会		集団	6戸・事務担当者
スタック実測	R1.10	集団	3戸
粗飼料在庫量集計結果報告会	R1.11	集団	5戸・事務担当者

○随時、農協担当者と情報共有しながら進めた。



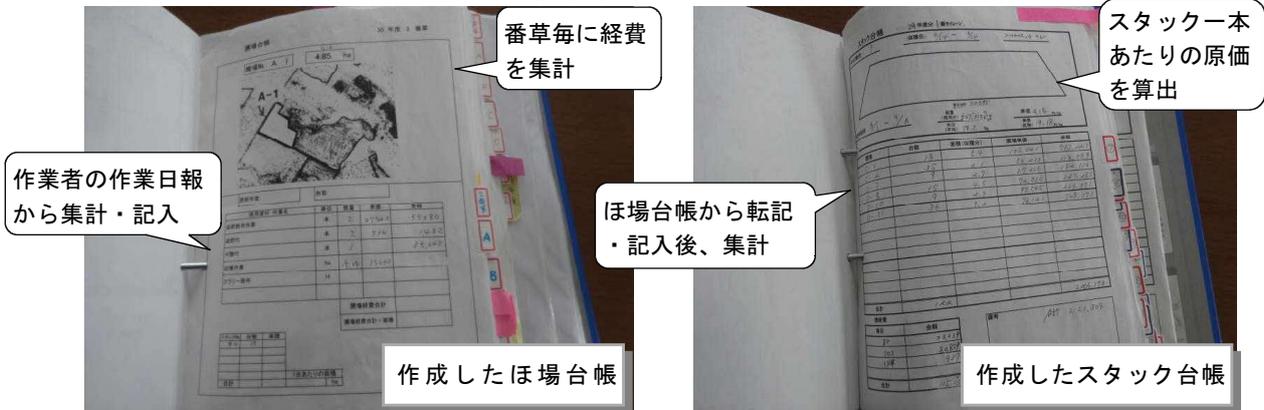
書類作成作業において普及員は作成方法を提案し、実作業は事務担当者が行った。作業の進捗状況や確認事項は、随時代表やオペレーターに報告・協議を行った。



構成員に働きかけ、H30年に植生調査、R1年にスタックサイロの実測（粗飼料在庫量調査）を行った。

3 活動の成果*****

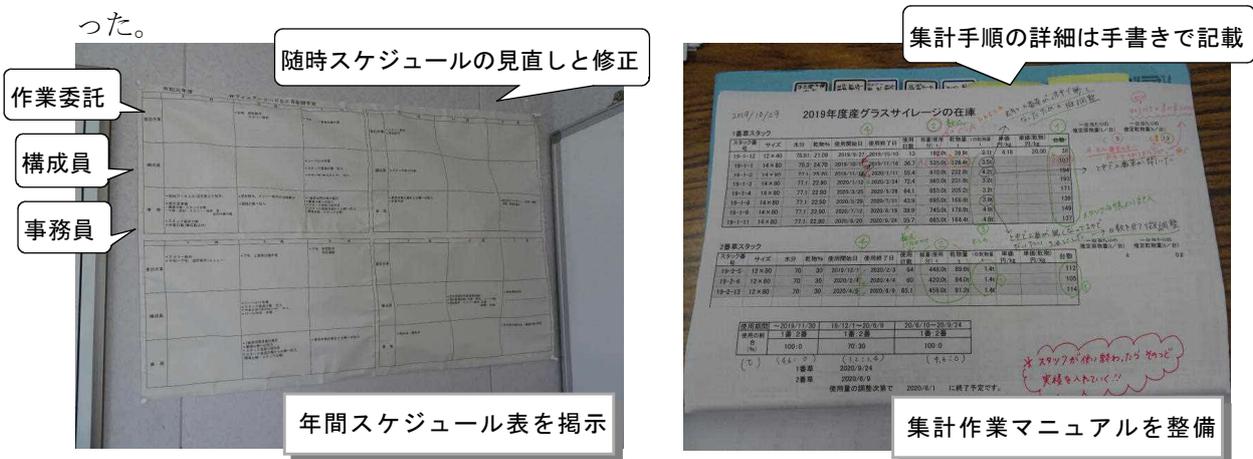
(1)「ほ場台帳」と「スタック台帳」を整備したことで、一筆あたりの経費・作業履歴、スタックサイロ一本あたりの経費・収穫面積・使用したサイレージ・原料草原価などの算出精度が上がった。その結果、役員会や外部販売時の検討材料とすることができた。



(2)データ蓄積の方法が確立されたことで、粗飼料の在庫量予測、ほ場管理についての検討会、センターの運営に関する検討会を実施することができた。その結果、センターとしての今後の方針決定につながった。



(3)「作業委託・構成員・事務員」毎の年間作業スケジュール表を作成し、事務所に掲示したことで、各作業者同士の連携が図られた。さらに、各種データの集計方法を整理した「集計作業マニュアル」を整備したことで、事務担当者が自主的に作業を進められるようになった。



4 今後の活動*****

引き続きTMR飼料部への支援を継続する。さらに、蓄積されたデータの活用方法を検討し、センターの円滑な運営や積極的な取組に向けて支援していく。